



☑ 編集チームより ☑

今年で海の日30回目 🎉 3連休に家族や友人と海に行こうと考えている方も多いと思いますが、楽しい海にも思わぬ落とし穴が潜んでいることがあるのでご注意ください！それではよい海の日を 🌟 (担当 S木)



祝・30回目の「海の日」！ ～海がつなぐ世界と未来～

今年は「海の日」が祝日として制定されてから30回目の節目の年！多くの方に海への関心と理解を深めていただくため「海の日記念行事2025」(東京国際クルーズターミナル)を始め、全国各地で海や船に関する様々なイベントが開催されます 🍉

「海の日」30回記念キャッチフレーズ
海がつなぐ世界と未来。



知っていますか？
国民の祝日「海の日」の意義

「海の恩恵に感謝するとともに、
海洋国家日本の繁栄を願う日」

私たちの暮らしに欠かせない海と船。「海の日」に、
私たちの海のこと、もっと知ってみませんか？



2025年海の日特設サイト

<https://c2sea.go.jp/uminohi2025/>

海の日30回記念！石原良純さんインタビュー

国土交通省のウェブマガジン
Graspでは、海を愛する俳優・
気象予報士石原良純さんのイン
タビュー記事を公開中！

1級小型船舶操縦士免許と
海技士免許をお持ちの筋金
入りの海好きさんだッピ！



<https://www.magazine.mlit.go.jp/interview/vol55-a-1/>



全国の海の日・海の月間イベント



7月～8月にかけて全国で開催される、
海や船にまつわるイベント情報はこちら！

海のイベント | 日本海事広報協会



この夏は全国の
海の月間イベントを制覇
するッピ！
(熱中症対策も忘れずに！)



こども霞が関見学デー

8月6日7日

今年もやってきました！
霞が関に子ども達の賑やかな声を響かせます！

国土交通省の仕事を見て、触れて、学べる人気
イベントです 🌟【予約不要※】

中でも一番のおすすめは、やっぱり…



海事局ブース！



詳細は [こちら](#) からご確認ください。

※事前予約が必要なプログラムの募集は終了しています。



海事局ブースでできること

その1 🚢

海遊びに必須の「ライフジャケット」を着て、
トリックアートをパシャリ 📷 🌟

その2 🚢

船員さんの服を着て決めポーズ 🚢 🌟 船のクイズ
「ふね検」にもチャレンジ！

その3 📺

参加するとプレゼントが貰えるかも！？



本物のネコ室長にも会えるかなあ…？
(ワクワク)



に

自動操舵まかせ

憎まれ船

自動操舵装置は自身で舵を取る作業を減らす、とても便利な装置です。

しかし！気持ちが自動操舵装置任せになり、つい居眠りをしてしまったり、他の作業をしようと船橋を離れてしまうことで**事故が発生している**のも悲しい事実・・

自動操舵装置の機能を十分理解して使用し、「憎まれ船」にならないようにしましょう！

✓自動操舵装置は「針路を保持」することは出来るが、「設定したコースライン上を走らせる」ことは出来ない

✓急激な大舵は取ることは出来ない

<手動操舵が好ましい場面※>

- ・港内や狭い水道などを通航するとき
- ・漁船が多いところを通航するとき
- ・霧などで視界が悪い中を通航するとき
- ・潮流が強い狭水道を通航するとき
- ・他船と接近するとき

テストに出るツビよ～

※厳密な見張りや適切な速力の設定をしていることが前提



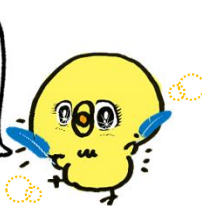
青い羽根募金 にご協力ください

青い羽根募金は、海で遭難した人々の救助活動にあたる全国のボランティア救助員の人々約50,000人を支援するための募金です。

海難救助は厳しい条件の中で行われるため、効果的かつ安全な救助活動を行うことができるよう、救助員は常日頃から組織的な訓練を行うとともに、ライフジャケット、ロープなどの救助資機材の整備が必要です。

青い羽根募金は、こうした救助資機材の購入などに役立てられています！

海の安全に
繋がるツビね



毎年7月から8月は、「青い羽根募金強調運動期間」です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

詳しくはこちら：

[青い羽根募金 | 日本水難救済会](#)



うみマガ読者の皆さまも、ぜひご協力をお願いいたします！



監査こぼれ話 vol.1

全国各地で監査を行う運航労務監理官。普段は厳しく目を光らせている姿をお見せしていると思いますが・・・日々こんなことを思いながら仕事に向き合っています！

「我々は重大事故が起きる前に、未然に防ぎたいという思いでお話させて頂いている」

運輸局長が海上運送法違反の警告書を事業者に交付する際、交付先の社長に対して投げかけた言葉です。落ち着いた口調でしたが、悲痛な叫びに近い、心の奥底から絞り出したような言葉に聞こえました。

この言葉を聞いた社長の顔から影のようなものがフツと消え、少し柔らかな表情になったことをよく覚えています。

「今後同じようなことが起きないように、事故を未然に防げるように、再発防止策をとっていただきたい。」運輸局長の最後の言葉に対して、社長は大きく何度も頷いていました。

運労官として、それまでの苦労が報われた瞬間として、今でも忘れられません。

■本メールマガジンに関するお問合せ先

国土交通省海事局安全政策課安全監理室

✉ hqt-umimaga@ki.mlit.go.jp



登録フォーム